

活動の目的

栗山町には、環境庁指定の「ふるさといきもの里」御大師山・フェアブルの森観察飼育舎があり、その山麓には自然活動の拠点となる「ふれあいプラザ」があります。

その中で子供たちが、昆虫調査・水生生物調査を実施し、更には施設での飼育補助や来客者へのガイドを行ない、地域における自然特性を生かした青少年の自然学習活動を図っていく。

また、異年齢集団における仲間づくりや、体験学習の機会の中で、ふるさとに生息する身近ないきものにふれあい、自然学習を通じて、主体的な活動を身につけ、自然への関心を高め視野を広げ自然の多様性を知ることによって学習意欲を高め、子供たちの主体性を育むため、単なる、自然学習だけで終わるのではなく、自然界での昆虫の役割と人間との関わりや共生についての学習を、実際の体験を通して身につける。更に、異年齢集団の特性を生かしたリーダーの育成と各種の事業を通して、自然環境の重要性を認識し、青少年のサークル活動を推進する事を目的としています。

活動の実績

平成4年、フェアブルの森観察飼育舎のオープンと同時に、虫好きな子供たちが頻繁に通ってくるようになり、自然発生的に結成したのが「栗山子供昆虫調査隊」です。

毎年4月に新入隊員を迎えた入隊式を行い、総会をもって年間の活動プログラムを設定します。

活動計画

- ①国蝶オオムラサキ事業の協力
- ②水のいきものの観察会
- ③昆虫調査会
- ④鳴く虫調査会
- ⑤見学学習会
- ⑥その他

等の計画をたて、各担当班の編成を自主的に設定し、異年齢間における仲間づくりを位置づけながら、活動を進めております。

以下は、実施の主な結果報告として列記します。

平成9年度事業実施一覧

子供たちの主体的活動と企画力を尊重し、各分野において興味ある事柄の学習機会を継続的に発展させるために自らの計画を立案し若干の変更をしながら以下のとおりの事業を実施しました。

●4月

子供昆虫調査隊入隊式

水のいきもの展示の水槽清掃ボランティア

エゾエノキの植樹会参加

●5月

オオムラサキ幼虫袋がけ事業参加

- 6月
水のいきもの調査会
草原の鳥探鳥会参加
臨時総会（今回の補助事業に伴う）
観察飼育舎ガイド班養成講座
- 7月
観察飼育舎ガイド班実施（至8月）
調査隊記念誌作製部会
- 8月
調査観察宿泊研修会（丸瀬布町）
調査隊記念誌作製部会
- 9月
札幌市円山公園観察研修会
鳴く虫調査会
鳴く虫展示への協力
調査隊記念誌作製部会
- 10月
昆虫教室（標本づくり）
栗の木自生調査
調査隊記念誌作製部会
- 11月
蝶のシオリづくり
冬鳥の観察会参加
調査隊記念誌作製部会
- 12月
調査隊記念誌作製部会
- 2月
雪山観察会参加
調査隊記念誌作製部会
- 3月
学習のまとめ
役員会議
調査隊記念誌作製部会

以上は子供昆虫調査隊の役員が草案を策定し、総会承認を得て実施しました。事業の成果は異年齢集団の交流を図り、各専門分野のスペシャ

リストの養成と集団活動のリーダー発掘養成を試み、少なからずの成果があがった。また自ら学ぶことを身に付け、自然への関心を高めることができたと共に、自然と人間の共生問題を学習できた。

平成9年度 団体構成

代表1名（栗山町教育委員会）
名誉隊員2名（調査隊OBの高校生）
隊長1名
副隊長1名
隊員37名
（小学生 3～6年 31名）
（中学生 6名）
サポーター2名（大人）

平成9年度事業実施内容

●子供昆虫調査隊入隊式

4月19日(金) 13時30分～15時
ふれあいプラザにて

昨年度より入隊していた中学3年生の卒業を見送り、実績があった3名を子供昆虫調査隊OBの指導班として活動していくことを承認しました。新しく入隊した隊員4名の紹介と一言ずつ興味分野を紹介しました。また役員改選は隊長の加瀬裕也君の留任が決まり副隊長に猪股直也君が選任されました。今年度は書記の立候補が無く、副隊長が兼任することとなりました。事業計画については昨年同様でとり進めることで意見が一致した。夏までの事業を確認し、以後は役員会議にて決定することとする。参加24名。

●水のいきもの展示の水槽清掃ボランティア

4月20日(日) 13時～15時
ふれあいプラザにて

毎年恒例となったボランティア事業で、ふれ

あいプラザの水槽5ヶの水替えを水のいきもの班が中心となり実施しました。参加16名。

●エゾエノキの植樹会参加

4月29日(祝) 13時～15時

ファーブルの森一帯

栗山オオムラサキの会が中心となっている国蝶オオムラサキの植樹であるエゾエノキの植樹会で、まず初めに冬囲いはずしから始め、20年後のオオムラサキの舞う森づくりを目ざした一人一本の植樹会に隊長をはじめとした7名が参加しました。参加高学年の隊員7名。

●オオムラサキ幼虫袋がけ事業参加

5月10日(土) 13時～14時

ファーブルの森・観察飼育舎

国蝶オオムラサキの育成事業一環で、越冬を終了した幼虫を食樹のエゾエノキに付け袋を掛ける事業で、袋がけ終了後、越冬幼虫の仕組みや、オオムラサキの生態を学習した。

昆虫調査隊のチョウ班とガイド班が中心となり14名が参加した。

●水のいきもの調査会

6月7日(土) 13時30分～15時

ハサンベツ川一帯

北海道の水生生物より判別する水質評価調査依頼を町教育委員会にて受けており、その継続調査の一環として実施しました。調査会は調査隊の単独事業として実施し、隊員の兄弟等の参加を願ったりして異年齢間の交流を図る試みをした。実施日はあいにくの悪天候であったが、魚類7種、水生昆虫類多数発見され、昨年度の調査同様に河川の水質は変化がなく生物相から判断すると比較的浄化されたきれいな水質であることが解かった。私たち人間の力では浄化することが不可能であることが十分学習できました。

●草原の鳥探鳥会への参加

6月8日(日) 8月～12時

夕張川一帯の草原

栗山町のおっ鳥クラブ主催の事業で毎年の恒例事業となっています。昆虫調査隊でも野鳥に興味のある隊員がいることと、自然の一員である野鳥と昆虫の関係を学習する機会の提供の場として重要である。参加18名。

●観察飼育舎ガイド班養成講座

6月14日・15日 13時～14時

ファーブルの森・観察飼育舎

ファーブルの森・観察飼育舎で飼育している昆虫類の飼育方法や幼虫・蛹・成虫の形態学習を中心に学習した。参加隊員は中学生の4名。

●子供昆虫調査隊臨時総会

6月22日(日) 13時30分～15時

ふれあいプラザ

今回の補助事業の内定により、事業計画の精査と今後の方針を話し合いました。事業計画は調査隊隊員の自主性に任せ、彼らが自ら計画を立案した。計画書を策定。参加26名。

●観察飼育舎ガイド実施

7月12・13・19・20・26・27日

ファーブルの森観察飼育舎

国蝶オオムラサキの羽化公開時期を中心にファーブルの森観察飼育舎に訪れる来客者へのボランティアガイド事業で、今年で6年目になり町内外からの高い評価を得ています。ガイド講習講座では4名の中学生が受講しましたが、昨年度の受講生も加わり、総勢8名のガイドにより実施しました。

●調査隊結成5周年記念誌部会

7月26日(土) 13時～14時

ふれあいプラザ

子供昆虫調査隊が自然発生的に誕生して、6年目になり、調査隊OBと現在の役員で検討した結果一つの区切りとして記念誌を発行することとし、第1回目の会議となった。調査隊OBと現役員の合計8名の参加。

●調査観察宿泊研修会

8月11日～12日（1泊2日）

丸瀬布町自然の家と湯ノ沢林道

子供昆虫調査隊が最も楽しみにしている事業で、隊員は低学年と中学生を均等に組み混ぜた班を結成し、各班にて自炊をする。出発までの間、各班で観察採集などの目標の設定と自炊の材料などの打ち合わせなど自ら自主的に計画書を策定し実施した。丸瀬布町では2日間とも雨になり、急きょ予定を変更し、釣り体験事業を行ない、それぞれが、イワナなどを釣り上げ歓声が上がっていた。雨のため昆虫調査会ができなかったため、翌日には当麻町の昆虫館『パピヨンシャトー』の見学会に切り替え終了しました。参加28名と講師及びサポート7名の参加。

●調査隊結成5周年記念誌部会

8月16日(土) 13時～14時

ふれあいプラザ

第2回目の記念誌部会で掲載する項目の洗い出しを行なったと共に次回までおもしろい写真や項目の追加の提案を試みることにして終了。

●札幌市円山公園観察研修会

9月13日(土) 9時～15時30分

札幌市

町外の日帰り研修会で、午前中は近年大陸から飛来し発生をつづけているオオモンシロチョウの調査会を行ない、手稲山麓で調査し少なからずの個体が発見された。そこで昼食をとり、午後からは円山公園一帯で昆虫や植物の調査会を行ない、栗山町と違った昆虫相の違いの学習ができました。参加27名と講師。

●鳴く虫調査会（鳴く虫展示への協力）

9月6日(土) 13時30分～15時

ファーブルの森一帯

毎年恒例の事業で、昨年には隊員により、北海道南部でしか発見されていないオンブバッタの発見があり、今年度も調査会に参加した隊員

はそれぞれ思い思いにファーブルの森一帯を探しました。今回はオンブバッタが発見はなかったものの11種の生息が確認され、採集品の一部はふれあいプラザにおいて増殖及び展示されました。参加した隊員達は、環境によって生息する種類に違いがあることを再認識していました。参加19名と講師。

●昆虫教室（標本づくり）

10月11日(土) 10時～12時

ふれあいプラザ

子供昆虫調査隊が夏休み期間にファーブルの森や町内で採集した昆虫の標本製作会で、標本は各自の家とふれあいプラザの中で展示することになっており、特に展示用の標本には採集者名が記載されるとあって慎重に作業が行なわれました。標本製作にあたっては、講師も指導しますが、上級生が下級生に指導を自主的に行ない異年齢間の交流が図られました。製作した昆虫は蝶が中心で、クワガタ類やオサムシ類など広範囲に及ぶものです。製作過程の中で、形態などの学習が自然にできたことと考えられます。参加16名と講師。

●栗の木自生調査

10月25日(土) 10時～11時

ファーブルの森一帯

町木であるシバグリの自生調査の実施。当日は気温及び悪天候にみまわれたため、参加者が7名で十分な調査は実施できませんでした。調査項目は樹高や幹回り、元気指数など事前に協議しました。

●蝶のシオリづくり

11月22日(土) 10時～11時30分

ファーブルの森観察飼育舎や昆虫調査中に得られた蝶の羽を使ったシオリづくりで、蝶の羽を胴体から切り放し、用紙に張り込み、胴体は観察したままを書き込み鑑賞的に又は花に求蜜している姿を再現し、それらをラミネートで封

じこめる事業で図鑑としてやシオリとして様々な使い道があります。それらの蝶類の羽を観察したりで形態の学習効果が図れました。参加24名。

●調査隊結成5周年記念誌部会

10月～12月

ファール森・町中央公民館

前回の掲載項目の確認と責任者の確認、または仕事の分担作業を行ない、各自で原稿収集などの活動を開始しました。

●雪山観察会参加

2月15日(日) 10時～14時

かんじきを使った冬の観察会。調査隊は体力的に全コースの参加が困難と考え、独自に講師をむかえ実施した。天候は良かったものの気温が低く、参加率が悪かったが少人数で冬芽の観察など内容が充実したものであった。

●学習のまとめ

3月28日(土) 13時30分～14時30分

ふれあいプラザ

今年度の事業の成果を説明し更に補助金による事業の拡大が図れた。また同時に反省も行ない今後の事業計画に反映することとした。また事業回数と他の事業が重なることが多く、同じ事業の場合は共催的に行なった。記念誌部会の経過報告では、原稿の集まりが特に低学年で悪く、5月を目途に完成の運びとしたいことを確認し、卒業する隊員で、記念誌部会になっている引き継ぎ作業が行なわれました。また、補助金にて平成9年度が大きく盛り上がり、今後その盛り上がりを消さないために教育委員会への資金援助の要請をしていくことを決めました。



水のいきもの調査会



鳴く虫調査会



水槽清掃のボランティア 水のいきもの展



昆虫調査会



野鳥を見る会



栗の木自生調査会